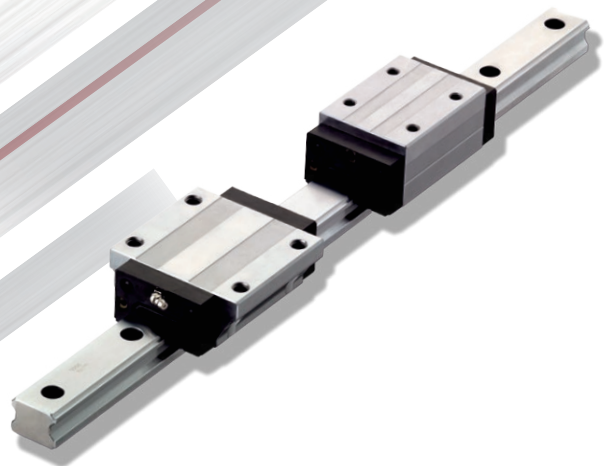


THK

第**48**期

中間報告書

2017年4月1日 - 2017年9月30日



経営理念

世にない新しいものを提案し、
世に新しい風を吹き込み、
豊かな社会作りに貢献する

代表取締役社長CEO

寺竹 彰 博



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと存じます。

当第2四半期連結累計期間においては、欧米を中心とする先進国経済が引き続き回復基調で推移する中、中国をはじめとする新興国において経済に持ち直しの動きが見られ、世界経済は緩やかな回復が続きました。当社においては、引き続き好調に推移するエレクトロニクス向けに加え、一般機械や工作機械向けの需要も拡大し、全般的に好調に推移する中、これまで強化してきたグローバルの事業体制を活かして、これらの需要を着実に取り込み、売上高に繋がりました。コスト面では需要が好調に推移する中でも、生産性向上に向けた各種改善活動に引き続き取り組みました。これらの結果、連結売上高は2,023億円、営業利益は196億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は178億円となりました。

世界経済の先行きは依然として不透明感が続く一方、IoTをはじめとするテクノロジーの発展やグローバルで増

加する自動化投資により当社製品への需要は着実に拡大しています。そのような中、当社では基本戦略である「グローバル展開」と「新規分野への展開」に加え、生産や販売をはじめとするあらゆる面でIoT、クラウド、AI、ロボットを徹底活用する「ビジネススタイルの変革」を成長戦略の柱として掲げ、産業機器事業および輸送機器事業における展開を加速させています。

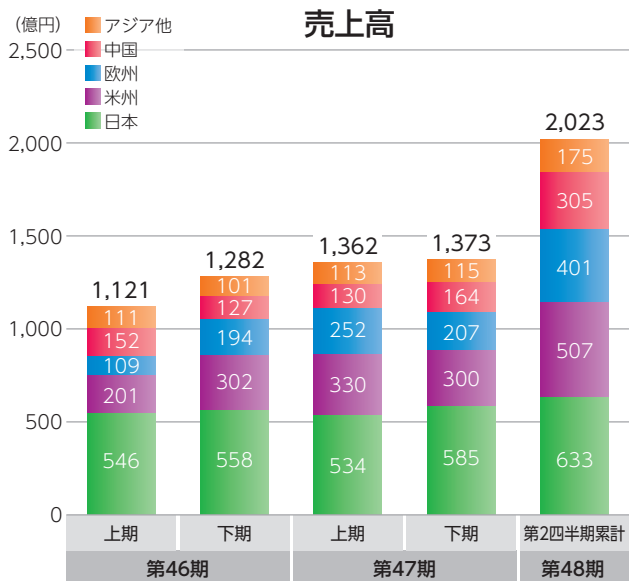
さらに、2017年10月にはグループ内の連携強化や業務効率のさらなる向上、事業継続計画（BCP）対応の強化などを目的として本社を東京都品川区から同港区へ移転するとともに、開発拠点、営業拠点および関係会社の一部を集約しました。

これらの取り組みにより、拡大する需要を着実に売上高と利益に繋げるとともに、さらなる成長と企業価値向上を実現させ、株主の皆様のご期待にお応えしてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結業績ハイライト

※当第2四半期連結累計期間については、3月決算の連結対象会社は6ヵ月間（2017年4月1日～2017年9月30日）、12月決算の連結対象会社は9ヵ月間（2017年1月1日～2017年9月30日）を連結対象期間とした変則決算となっております。このため、対前年同期増減率を記載しておりません。



※地域別売上高は、海外売上高ベース

日本

引き続き好調に推移するエレクトロニクス向けに加え、一般機械や工作機械向けの需要も拡大するなど、全般的に需要が好調に推移する中、これらを着実に取り込み、売上高に繋がりました。

米州

製販一体となって既存顧客の深耕を図るとともに、自動車をはじめ医療機器や航空機、エネルギー関連など新規分野の開拓に努めました。そのような中、エレクトロニクスや工作機械向けなどにおいて好調に推移する需要を着実に取り込み、売上高に繋がりました。

欧州

製販一体となって既存顧客の深耕を図るとともに、自動車をはじめ医療機器や航空機、ロボットなどの新規分野の開拓に努めました。そのような中、一般機械向けなどにおいて堅調に推移する需要を着実に取り込み、売上高に繋がりました。

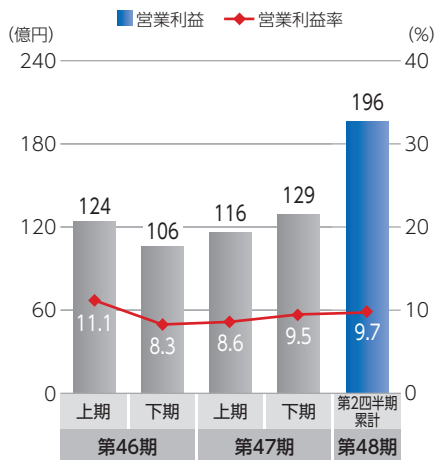
中国

スマートフォンや自動車に係る投資に伴う需要の拡大に加え、賃金の上昇や人手不足などを背景にFAが進展し当社製品への需要の裾野が着実に広がりました。そのような中、これまで積極的に強化してきた販売・生産体制を活かし、これらの需要を着実に取り込み、売上高に繋がりました。

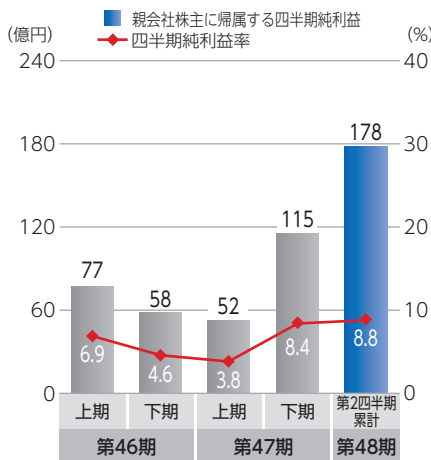
アジア他

ASEANなどにおいて販売網の拡充を進める中、既存顧客の深耕を図るとともに新規顧客を開拓すべく積極的な営業活動を展開しました。これらに加え、一部地域で中国の影響を受けて拡大した需要を着実に取り込み、売上高に繋がりました。

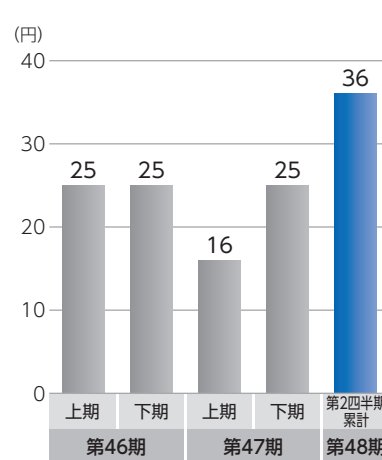
営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



配当金



中長期的な成長に向けた取り組み

売上高拡大に向けた取り組み

当社グループでは、中長期的な成長に向けて産業機器事業、その他の産業機器事業、輸送機器事業における売上高拡大に向けた取り組みを進めています。産業機器事業では、「幅広い顧客向けの販売」「アクティブ且つ効率的な営業活動」「継続的新製品開発」により中期的に売上高を300億円増加させていきます。その他の産業機器事業では、免震・制震装置、医療機器、航空機、ロボット、再生可能エネルギーといった消費財に近い新規

分野において新製品開発を加速し、採用拡大に取り組んでいます。輸送機器事業では、THK・THKリズム・TRAのシナジーを発揮することにより、自動車の足回り部品事業であるL&S（リンクージ アンド サスペンション）事業のさらなる拡大に加え、直動製品のコア技術を活かした新製品の開発と拡販に取り組んでいます。

売上高拡大



収益性強化

【産業用・その他】

1. ロボット化・自動化
2. グローバル生産の見える化
3. 各種費用の効率化
4. 適正販売価格戦略

【輸送用】

1. 工場相互利用
2. 購買の共同化
3. 製品統合

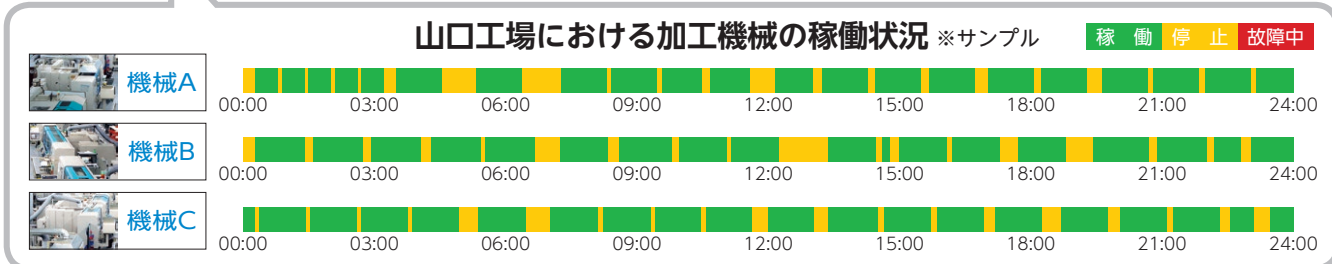
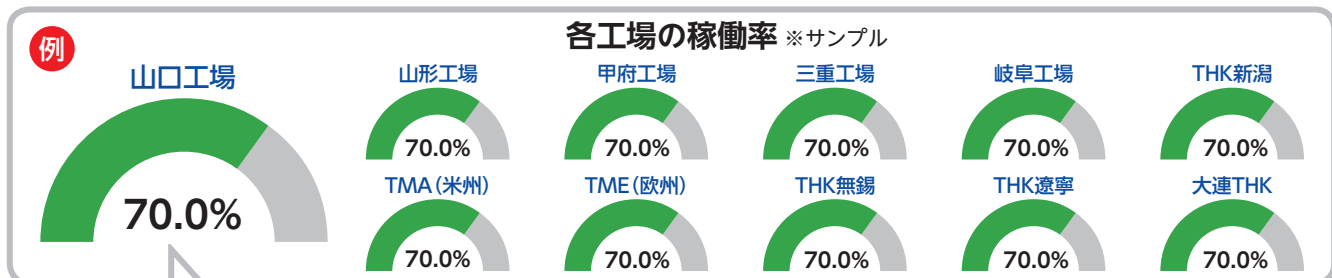
収益性強化に向けた取り組み

売上高拡大に加え、収益性強化に向けて生産や販売をはじめとするあらゆる面で各種取り組みを進めています。生産面では、引き続きロボット化・自動化を進めるとともに、新たにIoTを活用した取り組みによる生産性向上を図っています。その一環として、2017年3月に日本・米州・欧州・中国における産業機器の各工場の加工機の稼働状況が一目で分かる「イーグルシステム」の導入が完了しました。加工機をネットワークで繋げ

ることにより、工場単位、機械単位でタイムリーに稼働率が見えるようになりグローバルでの生産の平準化が可能となりました。将来的には加工機だけではなく、製品や現場の人員などもネットワークに繋げることによりあらゆる工程を見える化し、飛躍的な生産性向上を図っていきます。

IoTによる生産の見える化（イーグルシステム）

2017年3月 産業機器の日本・米州・欧州・中国の各工場導入完了

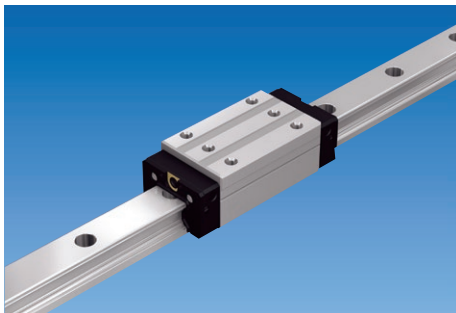


グローバル生産連携による生産の平準化

機械設備、人員、製品などあらゆるもの見える化することによる
飛躍的な生産性向上に向けた施策の第一歩

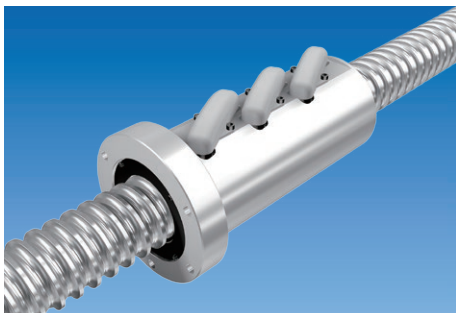
New Products

LMガイド HDR



「HDR」は1軸仕様に最適なLMガイドです。従来と異なるボール接触構造（DB構造）を採用し、LMガイド1本で構成する1軸駆動でも使用できるように剛性を確保しています。さらに、レール上面に転動溝が無い為、水平使用の場合、転動溝に異物が付着しにくい構造になっています。

ボールリテーナ入り高負荷ボールねじ HBN-V



「HBN-V」はボール循環方式を改良し更なる高速化と負荷容量の向上を実現いたしました。

高速使用が可能になったことで、射出成形機やプレス機の高速度・サイクルタイム短縮に貢献いたします。さらに、負荷容量の向上により、大型装置での採用が期待できます。

電動アクチュエータ プレスシリーズ PC ラインナップ拡充



「PC」は全長を抑えた設計でコンパクト化を実現した、サーボプレス用の電動アクチュエータです。大型のPC100/120をラインナップに追加し、油圧から電動へ動力の置き換えが進むFA（Factory Automation）分野において、油圧が用いられることが多かった高推力領域をカバーするだけでなく、内蔵の精密ボールねじにより油圧・空圧制御では難しかった高精度を実現いたしました。

▶ 幅広い顧客向けの販売拡大に向けた取り組み

THKの新サービス OmniTHK (<https://ec.thk.com/>) は、タイ・シンガポール・マレーシアの3カ国を皮切りに、2017年3月から運営を開始いたしました。

本サービスは、お客様にサイト内の各種機能をご利用いただくことで、購入までのリードタイムを削減することに寄与いたします。

2017年7月よりベトナム、10月よりインドネシアでも運営を開始しており、サポートエリアの拡大・機能強化など、更なる拡充を図ることで、お客様にご満足いただけるサービスを今後も引き続き提供してまいります。

Omni THK が備える各種機能



▶ 本店移転のご案内

この度、THK株式会社の本社事務所、開発拠点であるテクノセンターの一部、東京支店、上野支店および関係会社であるTHKインテックス株式会社およびトークシステム株式会社の本社事務所を港区へ移し、2017年10月10日より順次、営業を開始いたしました。

また、東京支店を東京第一営業部、上野支店を東京第二営業部へそれぞれ名称の変更をするとともに、両支店の業務部門を統合し、東京オーダーフルフィルメントセンター（東京OFC）を設立いたしました。

この度の本店移転および組織の変更では、各事業所を集約することにより、グループ内の更なる連携強化と業務の効率化、就業環境の改善および、免震システムの導入等による災害時の事業継続計画（BCP）の対応強化を図っております。

役員、従業員一同、株主の皆様のご期待に応えるべく、心を新たに一層の努力を重ねてまいります。



新本社外観



ショールーム内観

連結財務諸表 (要旨)

※当第2四半期連結累計期間については、3月決算の連結対象会社は6ヵ月間（2017年4月1日～2017年9月30日）、12月決算の連結対象会社は9ヵ月間（2017年1月1日～2017年9月30日）を連結対象期間とした変則決算となっております。

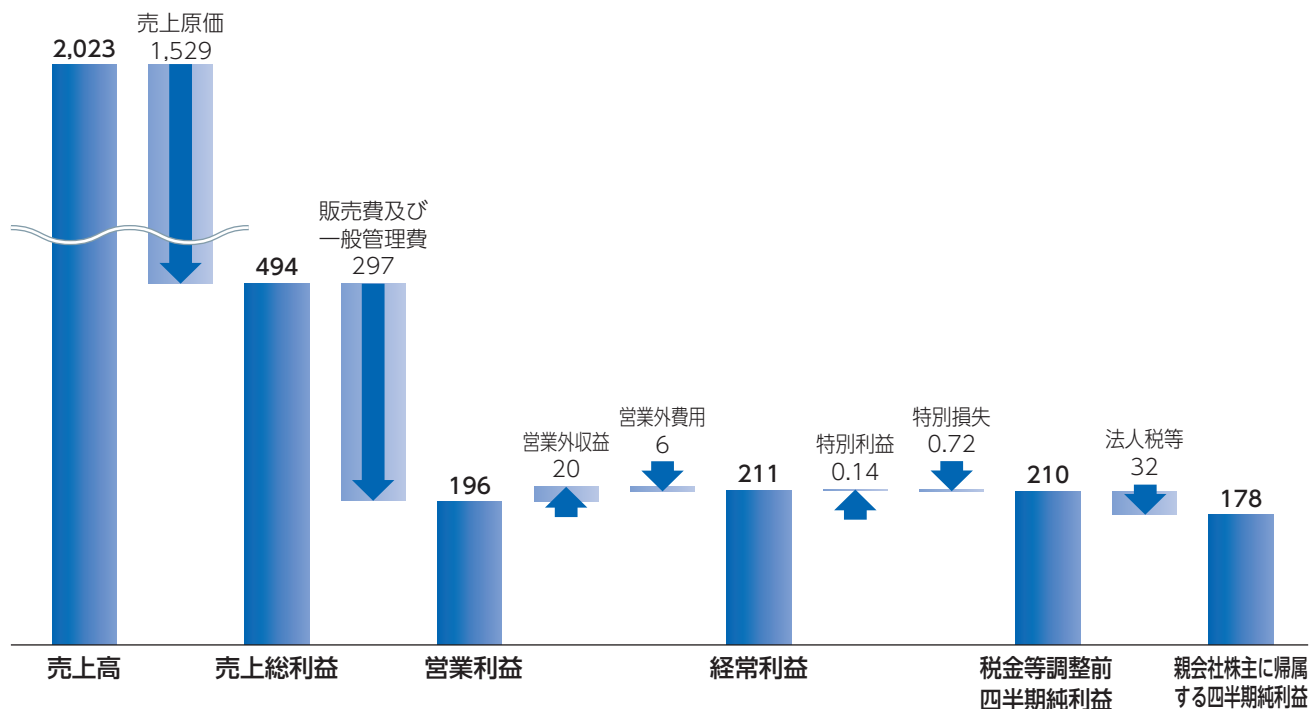
連結損益計算書

当第2四半期累計

3月決算の連結対象会社：2017年4月1日～2017年9月30日

12月決算の連結対象会社：2017年1月1日～2017年9月30日

(単位：億円)



売上高

国内では引き続き好調に推移するエレクトロニクス向けに加え、一般機械や工作機械向けの需要も拡大しました。海外でもアジアを中心に需要は全般的に増加しました。それらの需要を取り込み、売上高に繋がれたことにより、2,023億円となりました。

営業利益

需要が好調に推移する中でも、生産性向上に向けた各種改善活動に引き続き取り組んだことなどにより、営業利益は196億円となりました。

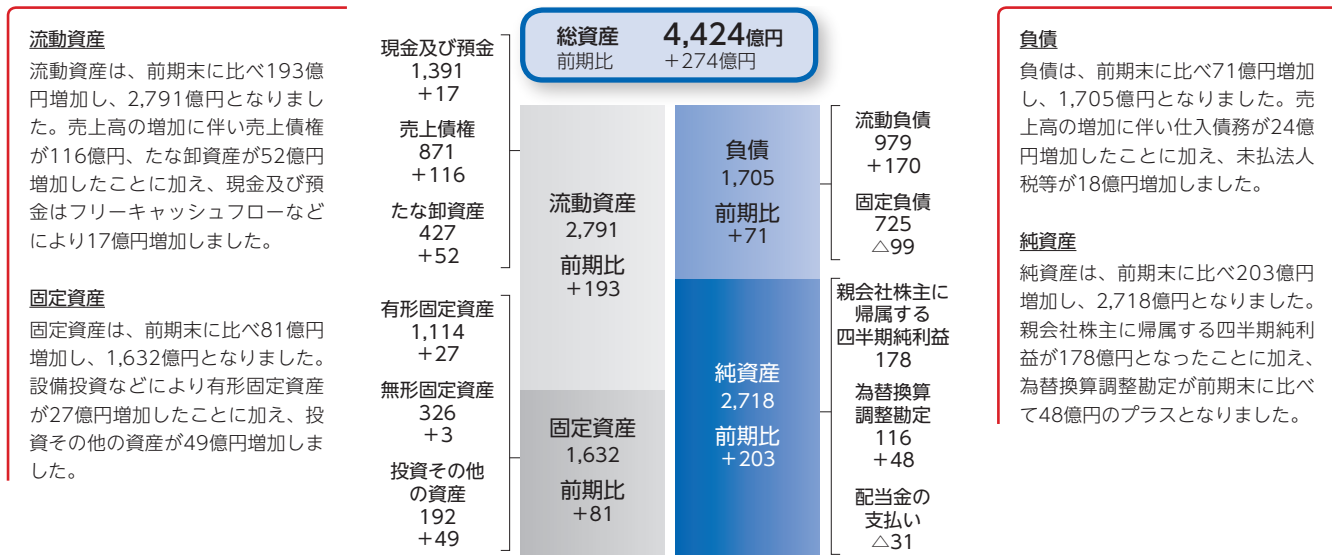
経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益

営業外損益では、営業外収益は、持分法による投資利益が7億円となったことなどにより、20億円となりました。営業外費用は主に支払利息が2億円となったことなどにより、6億円となりました。これらの結果、経常利益は211億円となりました。加えて、2017年10月23日に公表しました当社連結子会社のTHKリズム株式会社の子株をTRAホールディングス株式会社へ譲渡することを決議したことによる税効果の影響に伴い、法人税等調整額が28億円減少したことなどにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は178億円となりました。

■連結貸借対照表

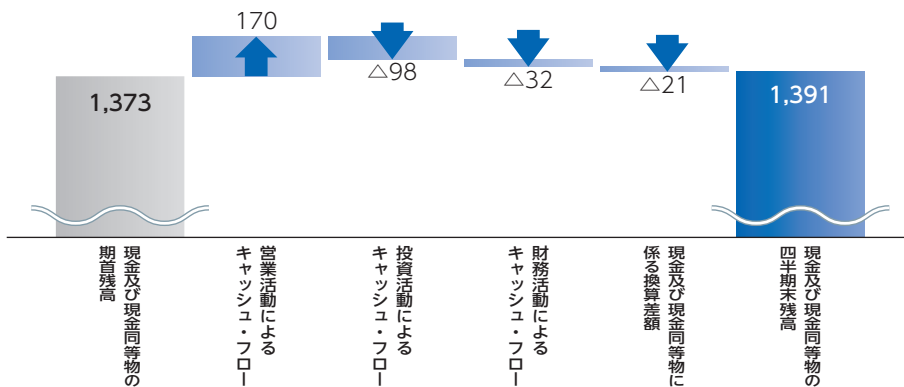
当第2四半期末 (2017年9月30日現在)

(単位：億円)



■連結キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期累計 3月決算の連結対象会社：2017年4月1日～2017年9月30日 (単位：億円)
12月決算の連結対象会社：2017年1月1日～2017年9月30日



営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益210億円、減価償却費94億円、売上債権の増加103億円、たな卸資産の増加46億円、法人税等の支払額43億円などにより、170億円のキャッシュ・インとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

主に固定資産の取得などにより、98億円のキャッシュ・アウトとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

主に配当金の支払いなどにより、32億円のキャッシュ・アウトとなりました。

そのほか、換算差額により、当四半期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べて17億円増加し、1,391億円となりました。

さまざまな製造現場で活躍しているTHK製品

世界シェアNo.1を誇るLMガイドを中心としたTHK製品は、産業機器の高精度化や高剛性化、高速化、省エネルギー化に貢献するとともに、生産ラインの自動化ニーズにお応えしています。

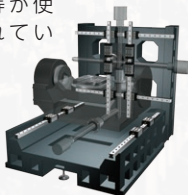
今回は、THK製品をご採用いただいている産業機器によって、どのような消費財が作られているのかをご紹介します。



産業機器での採用例

工作機械

主に金属部品の加工などを行う装置であり、直線案内部分にLMガイドやボールねじ等が使用されています。



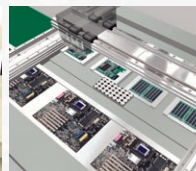
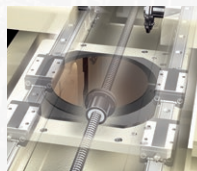
産業用ロボット

自動車などの組立や溶接、塗装などを行う装置であり、関節部や旋回部分にクロスローラーリングが使用されています。



電子部品関連

スマートフォンやパソコンなどに使われるICチップの製造、加工などを行う装置であり、直線案内部分にボールねじや電動アクチュエータ、ボールスプラインが使用されています。



ダイシングソー

チップマウンター

産業機器から量産される消費財の例

自動車



液晶テレビ



タブレットPC



スマートフォン



ノートPC



会社の概要 (2017年9月30日現在)

■会社概要

商号	THK株式会社 (THK CO., LTD.)
所在地	東京都港区芝浦二丁目12番10号 ※2017年10月10日に上記所在地へ移転
設立	1971年 (昭和46年) 4月10日
資本金	34,606百万円
従業員数	3,528名 (THKグループ13,020名)
事業内容	産業用ロボット、NC工作機械、各種半導体製造装置等の産業用機械の高精度化、省力化、高速化を実現する「直動システム」の製造販売、並びに自動車等の輸送用機器部品の製造販売
ホームページ	http://www.thk.com/
会計監査人	太陽有限責任監査法人

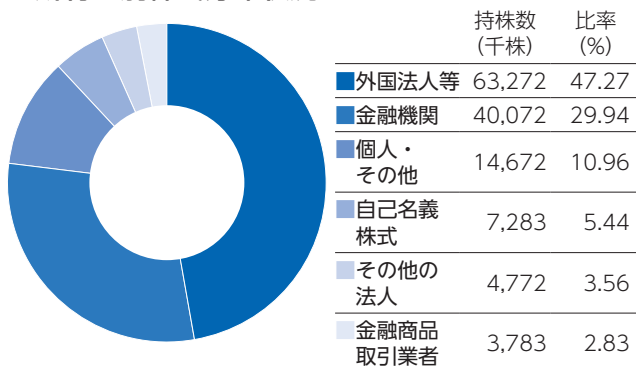
■役員

代表取締役社長 C E O	寺 町 彰 博
取締役副社長 C I O	寺 町 俊 博
取締役副社長 C F O	今 野 宏
取締役 兼 専務執行役員	榎 信 之
取締役 兼 専務執行役員	寺 町 崇 史
取締役 兼 常務執行役員	下 牧 純 二
取締役	坂 井 淳 一
取締役 (社外)	甲 斐 莊 正 晃
取締役 (社外) 監査等委員	日 置 政 克
取締役 (社外) 監査等委員	大 村 富 俊
取締役 (社外) 監査等委員	上 田 良 樹

■株式情報

発行可能株式総数	465,877,700株
発行済株式総数	133,856,903株
株主数	16,041名

■所有者別株式分布状況



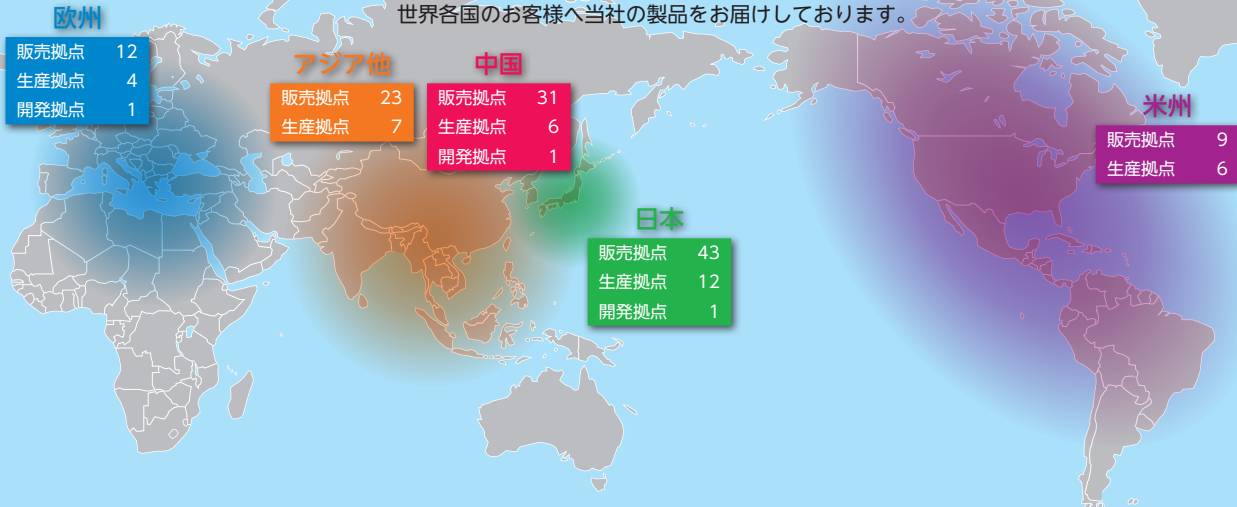
■大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	10,159	7.58
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	8,426	6.29
JP MORGAN CHASE BANK 385632	4,797	3.58
寺町 彰博	3,497	2.61
エフティシー株式会社	2,774	2.07
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SSD00	2,375	1.77
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	2,353	1.75
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	2,157	1.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口1)	1,918	1.43
GOVERNMENT OF NORWAY	1,915	1.43

(注) 上記のほか、当社が保有している自己株式7,283千株 (5.44%) があります。

Global Network

当社は生産拠点35ヶ所、販売拠点118ヶ所を持ち、世界各国のお客様へ当社の製品をお届けしております。



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
株主確定日	株主総会、期末配当金 12月31日 ^{※1} 中間配当金 6月30日 ^{※2}
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

※1 第48期の事業年度は、2017年4月1日から12月31日までの9ヵ月間

※2 第48期の中間配当の基準日は2017年9月30日

上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	6481
公告の方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 http://www.thk.com/jp/ir/

<p>株式に関する お手続きのご案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 郵送物の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 特別口座に記録された株式のお問い合わせ ● 株式事務に関する一般的なお知らせ 	<p>三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ※手続き書類のご請求は以下の方法でも承っております。 http://www.tr.mufg.jp/daikou/ からのダウンロード</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記以外のお手続き、ご照会等 <p>口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。</p>

IRメール配信サービスのお知らせ

当社は、株主・投資家の皆様向けにIRメールを配信しています。下記の登録サイトもしくは当社Webサイト内IR情報ページから簡単にご登録いただけます。



登録サイト <https://rims.tr.mufg.jp/?sn=6481>

*IRメール配信サービスは、三菱UFJ信託銀行株式会社が運営しています。



THK株式会社



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

